

CALL を利用した自律型学習への展望Ⅱ

外国語学部英米学科 大森 裕實

高等言語教育研究所に「CALL/ICT 部門」が設立され、学部の通常委員会である「LL・情報委員会」と意思疎通を図りながら、本学の外国語教育に *Computer Assisted Language Learning* (以下 CALL) と *Information Communication Technology* (以下 ICT) を活用して、学生の自律的学習がどの程度まで可能となるのか、また、そのための支援には何が必要なのかについて考察し、試行錯誤を繰り返した昨年度の活動を継承する形で、本年度は授業での効果的利用ということも射程に含めた実践的活動を行ない、今後の「CALL/ICT 部門」の方向性を考究する 1 年であったと総括することができる。

1. CALL 教室の整備計画——本学学務課及び教育研究センターとの連携

本学には平成 10 年度の長久手キャンパス開学移転時に設置されたアナログ方式の LL 教室 5 室(50 名収容の大 2 室と 30 名収容の小 3 室)が存在したが、PC や LL 機能の老朽化に伴ない、それを最新の PC と CALL 機能を備えたデジタル方式多目的メディア教室に改修することにし、その計画を本学学務課と検討して、綿密な数年計画を立案したことは昨年度版の本誌報告書に記載したとおりであるが、本年度も引き続き、本学の視聴覚教育用施設の整備計画に貢献した。以下に、いわゆる CALL 教室整備について、時間軸に沿ってまとめて、参考に附す。

①平成 18 年度:H205 教室(旧 LL50 人教室)の予算が計上され、新型 PC と PC@LL(内田洋行製 CALL)が導入された。

②平成 20 年度:G204 教室(旧 LL30 人教室)に新型 PC と簡易型 CALL“Wingnet”(コンピュータウイング社製)が設置された。

③平成 21 年度:H204 教室(旧 LL50 人教室)についても、学内の「魅力あふれる大学づくり関連事業」として 2 ヶ年度にわたり予算計上された結果、H205 教室同様に PC@LL を導入した CALL 教室に生まれ変わる。

④平成 22 年度:H205 教室(旧 LL50 人教室)の PC&CALL リース契約の満了に伴ない、予算が計上され、新型 PC と PC@LL(内田洋行製 CALL)が年度末に導入される。

上掲いずれの場合にも、CALL システム導入後には、本学教員を対象とする説明会を開催してきたが、直近の③の場合には、教育研究センターとも連携し、当該施設を利用する機会の多い(非常勤講師も含めた)本学教員に加えて、授業をサポートする機会の多い学務課職員を対象とする「PC@LL 利用講習会」を開催した(平成 22 年 6 月 4 日に実施)。

2. ICT 活用のためのワークショップ——関連学会との連携と社会的貢献

大学英語教育学会(JACET)ICT 調査研究特別委員会から依頼を受けたワークショップについて、本報告者と David Watts 講師(本学英米学科)が共同企画し、それを JACET 中部支部第 27 回大会(2010 年 6 月 6 日)において実施した。これは、昨年度の Edgar Pope 教授とのワークショップに引き続き、本部門のサポートを受けて、本研究所研究員が行なった学界及び一般

社会に対する社会的貢献の一環として位置づけられる。

当該ワークショップの内容は、“Using Internet Sourced Materials in the Presentation of Research and Writing Courses at Aichi Prefectural University, Japan” という表題が示唆するように、インターネット上の多様な資料媒体を活用して、学生の動機づけを活性化し、自主的調査からプレゼンテーションやライティングに繋げていく実践的なものである。さらに、Watts 講師は、これらの詳細を本学『外国語学部紀要』第 43 号と JACET 編『ICT 活動報告書』(ともに 2011.3) にまとめているので、参照されたい。

3. CALL 教室を利用した学生自主学習のススメ——語学試験対策としての H205 教室の運営

本年度も昨年度に引き続き、「語学試験 (TOEFL/TOEIC/IELTS) 受験のための学生自主学習」を次のような要領で実施した。ただし、現状に鑑みると、本事業を今後も積極的に推進するためには、実施体制について改めて検討しなければならない課題を残した。

- (1) 場所: H205(CALL)教室。
- (2) 目的: CALL を利用した語学試験 (TOEFL/TOEIC/IELTS) 受験のために学生が自主的に学習することを支援する。
- (3) 日時: 毎週水曜日午後 1 時から午後 4 時まで。
- (4) 当該時間帯の運営のため TA (大学院生) が常駐する。
- (5) 使用できる 3 種類の複数教材 (これらの教材をそのまま持ち帰ることは不許可)
 - a) TOEFL テスト完全攻略模試 (6 セット)
 - b) TOEIC テスト新・最強トリプル模試 (7 セット) / 重点強化式新 TOEIC Test リスニング問題集 / TOEIC テストリスニング徹底攻略新 / TOEIC TEST 実戦パーフェクト模試 (各 1 セット)
 - c) IELTS 試験対策 Cambridge IELTS 6 Self-study Pack (4 セット)

4. 本学学生のニーズに適合した視聴覚教材の開発——音声学実験実習室との連携

本学部が所管する「音声学実験実習室」では“スピーチ・クリニック”を開設して、外国語 (特に英語) の発音の不得意な学生や Native Speaker の自然な発音に近づきたい学生を対象とする発音矯正を課程外教育として実施している。ここでは、学習者が自律的に英語音声リズムを習得できるソフト「自然な英語リズム完全マスター Part I」(Windows XP 対応) の続編として、Audacity という無料ソフトを新しく利用した「同教材 Part II」(Windows VISTA 対応) を平成 21/22 年度に完成した。これらは CD-ROM 化することにより、「視聴覚自習室」で学生の自由利用に供することが可能になった。この自律型学習教材は、視覚認知情報を音声波形に附加して、臨界期を過ぎた成人学習者の音声認識のサポートを行なう点に特徴がある。

また、William Jones 非常勤講師には、昨年度に引き続き、本学の専門科目としての英語授業内容に適応した音声教材の作成を依頼した (Jones 講師の吹込み)。

5. 今後の重点的課題

CALL 導入の意義が広く一般に理解されるように、本学で実際に展開が可能な CALL 利用のモデル授業を学内外に積極的に紹介し、CALL を利用した自律型学習の向上を図ることにより、いっそうの社会的貢献に寄与することが期待される。